

教育委員会だより

中学生のときに部活動に参加した経験のある方は、たくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。仲間との友情やチームワークなど部活動を通して学んだことは、きっと一生の宝物になっていることと思います。

今回は、中学校の部活動の現状について、お知らせします。

中学校の部活動の状況は？

現在、曾於市の各中学校の部活動数は次のとおりです。

中学校名	運動部	文化部	その他
末吉中学校	13	2	
大隅中学校	10	1	0
財部中学校	7	1	1

主な部活動は、運動部が、野球、サッカー、バレーボール、バスケットボール、卓球、ソフトテニス、陸上、柔道、剣道、弓道となっています。文化部は、吹奏楽と美術部です。その他、ボランティア部のある学校もあります。

曾於市内の3中学校で、部員が多い運動部は、第1位が卓球で66名、第2位が弓道で54名、第3位がソフトテニスで52名となっています。一方、文化部は、吹奏楽部に50名、美術部に24名の中学生が参加しています。

しかし、以前と比べ生徒数の減少で、部の数や部員数が少なくなった学校もあります。



部活動の加入率は？

部活動に参加している生徒の割合は、表のとおりです。学年、年度で若干の違いはあるものの、毎年、7割近い中学生が加入しています。それでも、全国平均の8割と比べて、やや少ない加入状況となっています。

特に、曾於市では年々加入率が減る傾向にあり、中学生の部活動離れが懸念されています。

また、最近は学校の部活動には参加しないで、学校外のスポーツクラブ等に参加する生徒も増えてきています。

部活動加入率の推移（％）

	中学1年	中学2年	中学3年
H 26年度	79	68	67
H 27年度	66	72	64
H 28年度	71	75	74
平均	72	72	68

少子化による部活動への影響は？

急激に進行する少子化によって、中学校の部活動も深刻な影響を受けています。一番の影響は、部員数の減少による部の存続問題です。部員数が減り、単独チームとしての維持が厳しくなり、やむなく他校との合同チームを結成して、大会等に出場する状況も見られるようになっています。

その他、少子化による学級減により、教職員の定数も減り、顧問等を確保できない学校もあります。場合によっては、現在ある部を廃止せざるを得ない状況もできています。



今年度の部活動の成果は？

末吉中学校

▽県総合体育大会剣道競技 女子団体優勝
▽県総合体育大会柔道競技 女子団体準優勝

男子1kg級 2位 濱田 耕太郎
女子63kg級 優勝 天川 きらり
女子70kg級 優勝 宮田 礼菜

▽県総合体育大会陸上競技 男子3000M 2位 荒武 真也

▽九州中学校体育大会柔道競技 女子個人70kg級 第3位 宮田 礼菜
▽全九州卓球選手権大会県予選 女子シングルス優勝 児玉 凛

大隅中学校

▽県吹奏楽コンクール 金賞

▽県総合体育大会陸上競技 男子1500M 2位 三坂 佳貴

▽県総合体育大会駅伝競技 女子2位 男子3位

財部中学校

▽県総合体育大会柔道競技 男子60kg級 3位 吉元 翔摩

▽県新人体育大会柔道大会 男子60kg級 1位 吉元 翔摩
男子55kg級 2位 岡元美乃合

これからの部活動を考える

現在、多くの中学校教員が、自らの専門とは異なる部の顧問となり、指導に当たらなければならぬ状況があります。さらに、教員業務の拡大や大会等の増加による練習量の増大など、指導する教職員の負担も以前より大きくなっています。

このような状況を受けて、国や県では、部活動の適正化を推進するために、外部指導者の導入や、週2日程度の休養日の設定を指導しています。

市教委でも、本来の学校教育における部活動の意義を踏まえながら、部活動の在り方について見直しを図り、その充実・発展に努めてまいります。